

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：計画手法	
日付：11月21日（土）曜日、セッション時間：16:45～18:15	
司会者名（所属）：円山 琢也（熊本大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>計画手法論に関係した研究として、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 満足度調査・業績評価指標を利用した都道府県単位への予算配分モデルの新たな提案、 - OD 逆推定モデルの実務への適用、 - 混合線形計画問題として定式化した最適耐震化問題の拡張 <p>の3件の発表がなされた。</p>
	<p>（発表番号 43）堀越智尋（東京理科大学大学院理工学研究科土木工学専攻）</p> <p>講演集に掲載されている利用者満足度調査を利用したモデルに追加して、業績評価指標を考慮した予算配分モデルの発表がなされた。</p> <p>満足度指標と業績評価指標の相関関係の確認、業績評価での客観値で考慮されていない要素と満足度の主観値との対応という整理の可能性について指摘がなされた。相関の確認はしていないが、ゆるい相関があると考えられ、満足度には（東京の混雑は簡単には解消できない等の）あきらめの感覚が反映されている可能性があるとの回答がなされた。</p> <p>このほか、県単位での予算配分では個別の事業との対応が難しいのではという指摘、また、個別事業の積み上げで予算が決定されている現実を踏まえた場合の本モデルの適用可能性についての議論もなされた。さらに、都道府県という分析単位の妥当性、B/C で計測される効率性評価との関連についての討議もなされた。都道府県単位で予算配分し、その内部の事業は、B/C で優先順位をつける等の活用法を考えていること、また、客観的で透明性の高い予算配分方式の構築に向けて、業績評価指標を利用した本モデルの改良検討を続けていきたいとの回答がされた。</p>
	<p>（発表番号 44）上坂克巳（国土技術政策総合研究所）</p> <p>OD 交通量逆推定と交通量配分を繰り返して収束させることの必要性、誤差最小化だけでなくエントロピー最大化の考えを応用することの可能性等について指摘があった。今回は、特定の地域に系統的な調査誤差があることが判明していることもあり、発生交通量を微修正する考え方の単純なモデルを適用していることの説明がなされた。</p> <p>今後、OD 調査そのものを廃止し、ETC データのランプ間交通量や、過去の OD 調査のデータなどのみの部分的なデータから、OD を逆推定していくことの可能性についての議論もなされたが、現時点では OD 調査の廃止は念頭がないとの回答があった。</p>

(発表番号 45) 佐々木 和寛 (東北大学大学院):

講演集に掲載されている理論モデルの単純なネットワークへの適用計算結果が追加で紹介された。

今後の展開として、高速道路点検時間の短縮方策についての質問がなされ、点検チームの最適配置などへの拡張も検討中であることが紹介された。計算時間については、実ネットワークで予算制約が大きい設定をすると長時間かかることもあるが、real time でのモデルの運用を考えているわけではないので、大きな問題ではないと考えていることが回答された。このほか不確実性下のモデリングについて被災シナリオごとに交通容量を確定値で設定する妥当性等に関してや、最適搬送の規範モデルとして解釈できるのかどうか、発表時に新たに追加された数値計算事例の解釈などの議論がなされた。